

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 1 日現在

機関番号：32652

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22320019

研究課題名（和文） 死海文書に基づく旧約聖書の原型探究 「歴史書と預言書」

研究課題名（英文） Inquiry into Proto-types of the Historical and Prophetic Books in the Nebiim based on the Dead Sea Scrolls

研究代表者

守屋 彰夫（MORIYA AKIO）

東京女子大学・現代教養学部・教授

研究者番号：70239698

研究成果の概要（和文）：ヘブライ語聖書の第 2 区分であるネヴィイーム（預言者）に属する 8 つの書物（ヨシュア記、士師記、サムエル記、列王記、イザヤ書、エレミヤ書、エゼキエル書、十二小預言書）の本文生成過程を、主として死海文書資料、七十人訳ギリシア語聖書との照応関係と乖離・不整合に関する比較研究を通して、紀元前 3 世紀以降、紀元後 1 世紀に亘る期間について追究し、現在の欧米の学界での成果に迫る基本的理解を得ることが出来た。

研究成果の概要（英文）：Comparing and collating the relevant biblical texts with the Dead Sea Scrolls and the Septuagint, we have scrupulously investigated the textual evolution of the eight books within the Nebiim in the Hebrew Bible (Joshua, Judges, Samuel, Kings, Isaiah, Jeremiah, Ezekiel, and Twelve Prophets). This project has reconsidered traditional text-analysis methods and illuminated various interdisciplinary approaches to the Hebrew Bible.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
2011年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2012年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
年度			
年度			
総計	12,600,000	3,780,000	16,380,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、宗教学

キーワード：死海文書・七十人訳ギリシア語聖書・歴史書研究・預言者研究・バビロン捕囚・ペルシア時代史

### 1. 研究開始当初の背景

19 世紀以降ヨーロッパ、殊にドイツを中心に展開・発展したヘブライ語（旧約）聖書の本文生成に関する文書仮説が、1947 年以降の死海文書の発見とその解読と研究の進展により、紀元前 3 世紀から紀元後 1 世紀に亘る資料証拠に基づいて根本的な再検討が迫られるようになった。また、バビロン捕囚、捕囚からの帰還、ペルシア帝国支配下のパレス

チナとディアスポラ（離散の地）でのユダヤ人の宗教的動向、第二神殿時代のやがて聖書に集成する文書の生成発展などに関する研究が著しく進捗していた。七十人訳ギリシア語聖書も死海文書が成立する時期とほぼ重複する時期に成立し、ヘブライ語聖書と並行して発展した経緯もあり、現在でもその原型再現の試みがドイツを中心に進行している。更に、近年、研究の進展が著しいサマリア五

書研究も、モーセ五書のみならず、歴史書と預言者研究にも多大の影響を及ぼすほどになってきている。

## 2. 研究の目的

前述のような研究状況に鑑み、本研究は、ヘブライ語聖書の第2区分(ネヴィイーム)に属する歴史書と預言書をそれぞれの領域の専門家が協働して、新しい研究状況に適切に対応した、ヘブライ語聖書の原型を探求することを目的とした。(なお、ヘブライ語聖書の第1区分であるモーセ五書に関しては、前回の基盤研究(B)(2006年度~2008年度「死海文書と七十人訳ギリシア語聖書の総合的・学際的研究 - モーセ五書本文伝承史 -」)で解明を試み、その成果は本研究が進展する過程で、日本語と英語で成果が公刊された。)

## 3. 研究の方法

ヘブライ語聖書、所謂マソラ本文の第2区分に属する個々の諸文書、前半の歴史書であるヨシュア記、士師記、サムエル記、列王記と、後半の預言書であるイザヤ書、エレミヤ書、エゼキエル書、十二小預言書に関して、死海文書が提供する文書資料に基づく新しい視座からの照合と精査を、研究代表者、研究分担者、連携研究者全員の分担を決めて遺漏のない網羅的な研究方法を採用した。エレミヤ書に関しては、マソラ本文とギリシア語七十人訳聖書との構成上の乖離が大きいので、死海文書との照合と精査に加えて、両者の本文の比較研究も考察に加えた。預言書研究に関しては、知恵文学との関係が深く、死海文書研究と知恵文学に造詣の深い勝村弘也氏の協力を得ることとなった。

歴史書研究に関しては、死海文書のみならず、古代中近東のアッカド語文献研究とも密接な関連があり、この分野の第一人者である月本昭男氏と山田重郎氏が連携研究者として参加することとなった。

## 4. 研究成果

ヘブライ語聖書の第2区分であるネヴィイーム(預言者)に属する8つの書物の本文生成過程を、死海文書資料、七十人訳ギリシア語聖書、更に古代オリエントの楔形文字資料を用いて、それぞれの照応関係と乖離・不整合に関する比較研究を行い、紀元前3世紀以降、紀元後1世紀に亘る期間について各文書間の異同を追究し、現在の欧米の学界での成果に迫る基本的理解を得ることが出来た。我が国の死海文書研究に関しては、これまで総論に関してはある程度の成果があったが、具体的な各論に関してはほとんど見るべき成果がなかったので、今回の共同研究によってその端緒が開かれることになった。その研究成果については、個々の研究者がそれぞれの機会

に発表することとなったが、それらは以下の論文、著書などに見られるとおりである。国際的で多彩な分野での活躍はこの基盤研究の成果の特徴と言えよう。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

山我哲雄、申命記史書におけるダビデ王朝、日本聖書学研究所、聖書学論集、査読有、45巻、2013、25-74

月本昭男、Ein neuerer Text im Hana-Stil in mittelassyrischer Schrift、Revue d'Assyriologie et d'Archeologie Orientale、査読有、105巻、2012、85-94

山我哲雄、Warum wird Ahas nicht persönlich gestraft im der Chronik?: Ein Beitrag zum Verstaendnis der Vergeltungstheologie des Chronisten、Annual of the Japanese Biblical Institute、査読有、38巻、2012、5-52

山田重郎、A Pudum Rotation List from Tell Taban and the Cultural Milieu of Tabatum in the Post-Hammurabi Period、Revue d'assyriologie et d'archeologie orientale、査読有、105巻、2012、137-56

山田重郎、An Adoption Contract from Tell Taban, the Kings of the Land of Hana, and the Hana-style Scribal Tradition、Revue d'assyriologie et d'archeologie orientale、査読有、105巻、2012、61-84

守屋彰夫、サムリア五書の視点からマソラ本文を考える - 貫性志向と想像的飛躍の溝を埋める試み -、日本聖書協会、聖書翻訳研究、査読有、32号、2011年、69-86

秦剛平、Where is the Temple Site of Onias IV in Egypt?、Jack Pastor, Pnina Stern and Menahem Mor (eds.), Flavius Josephus: Interpretation and History (Supplements to the Journal for the Study of Judaism)、査読有、146巻、2011、171-91

秦剛平、英語圏におけるヨセフスの近代語訳とその受容史、京都大学基督教学会、基督教学研究、査読有、31号、2011、1-29

守屋彰夫、死海文書アラム語「外典創世記」翻訳と註解、日本聖書学研究所、聖書学論集、査読有、42巻、2010、61-120

佐藤研、使徒パウロの「回心」体験、神学研究、査読有、88号、2010、83-96

月本昭男、Peace for the Dead, or Kispu(m) Again, ORIENT、査読有、44 巻、2010、101 - 109

月本昭男、Y. Paz、他、Excavations at Tel Rekhesh, Israel Exploration Journal、査読有、60 巻、2010、22 - 40

山田重郎、Administration and Society in the City of Tabatum as Seen in the Old Babylonian Texts from Tell Taban, K. Ohnuma (ed.), Al-Rafidan Special Issue: Formation of Tribal Communities: Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria、査読有、Special Issue、2010、247-52

〔学会発表〕(計 16 件)

秦剛平、Translating the Greek Bible into Japanese: a personal history, AHS colloquium (招待講演)、University of Cambridge (イギリス)、2013 年 3 月 12 日

秦剛平、The First Edition of William Whiston's English Translation of Josephus published in 1737, Oxford Centre for Hebrew and Jewish Studies (招待講演)、Oxford University (イギリス)、2013 年 1 月 8 日

秦剛平、The Use, Misuse, and Abuse of Josephus in the Church History of Eusebius、Faculty of Divinity, University of Cambridge (招待講演)、University of Cambridge (イギリス)、2012 年 11 月 19 日

守屋彰夫、Intentional/unintentional, logical/illogical, or important/unimportant: Which term(s) would be appropriate to characterize the Samaritan Pentateuch?, 8th Congress of the Societe d' Etudes Samartaines, Evangerisches Augustinerkloster zu Erfurt (ドイツ)、2012 年 7 月 17 日

山田重郎、Inscriptions of Tiglath-pileser III: Stylistic Historiographic Features, Conference "Assyrian Scribal Art: Assyrian Royal Inscriptions and Library Texts, University of Tsukuba、2012 年 5 月 10 日

守屋彰夫、サマリア五書研究の現状と死海文書との比較検証作業、日本聖書学研究所 3 月例会、日本聖書神学校、2012 年 3 月 12 日

山田重郎、Two Hana-style Contracts from Tell Taban and its Historical

Implications、Institute fuer Assyriologie und Hethitologie、University of Munchen (ドイツ)、2012 年 1 月 31 日

山田重郎、Old Babylonian Texts from Tell Taban and the City of Tabatum in the Post-Hammurabi Period、Seminar fuer Sprachen und Kulturen des Vorderen Orients, Assyriologie、University of Heidelberg (ドイツ)、2012 年 1 月 24 日

山田重郎、New Adoption Contract from Tell Taban and the Hana-type Scribal Tradition, Tradition and Innovation in the Ancient Near East, 57<sup>th</sup> Rencontre Assyriologique

Internationals, Sapienza, Universita di Roma, Rome (イタリア)、2011 年 7 月 6 日

山田重郎、The Reign and Inscriptions of Tiglath-pileser III: An Assyrian Empire Builder (744-727 BC), Lecture at College de France, College de France, Paris (フランス)、2011 年 3 月 25 日

山田重郎、Geographical Circumstances of Tabatum from Post-Hammurabi Period to the Middle Hana Period, Fourth SAKURA Meeting: The Religion of Euphrates and Habur Seen from Tabatum and Mari, Hugot Foundation, Paris (フランス)、2011 年 3 月 23 日

山我哲雄、Treaty and Covenant in Chronicles, International Organization for the Study of the Old Testament 20<sup>th</sup> Congress, Helsinki (フィンランド)、2010 年 8 月 5 日

山我哲雄、歴代誌でアハズはなぜ個人的に罰せられないのか、日本旧約学会春季大会、日本聖書神学校、2010 年 5 月 19 日

山我哲雄、歴代誌における外政思想、日本聖書学研究所 5 月例会、日本聖書神学校、2010 年 5 月 17 日

山田重郎、テル・タバンの出土養子縁組文書といわゆるハナ文書の伝統について、第 53 回シュメール研究会、京都大学、2010 年 5 月 9 日

守屋彰夫、Politico-religious Relations in Yehud under the Persian Governors, Symposium: Socio-economic Structures of Judah and Its Neighbors in the Persian Period, 国際基督教大学、2010 年 2 月 17 日

〔図書〕(計 12 件)

秦剛平、美術で読み解く聖人伝説、ちくま学芸文庫、2013、427

守屋彰夫、秦剛平、編著、Pentateuchal Traditions in the Late Second Temple Period: Proceedings of the International Workshop in Tokyo, August 28-31, 2007、Brill Academic Press (Leiden, The Netherlands)、2012、314

秦剛平、神の支配から王の支配へ ダビデとソロモンの時代、京都大学学術出版会、2012、474

佐藤研、最後のイエス、ぷねうま社、2012、225

佐藤研、旅のパウロ その経験と運命、岩波書店、2012、261

山我哲雄、海の奇蹟 モーセ五書論集、聖公会出版、2012、369

守屋彰夫、翻訳、ゲザ・ヴェルメシ著、解き明かされた死海文書、青土社、2011、314

守屋彰夫、秦剛平、編著、古代におけるモーセ五書の伝承、京都大学学術出版会、2011、427

秦剛平、名画でたどる聖人たち もうひとつのキリスト教世界、青土社、2011、341

秦剛平、天使と悪魔 美術で読むキリスト教の深層、青土社、2011、324

秦剛平、聖書と殺戮の歴史、京都大学学術出版会、2011、359

山田重郎、H. Tadmor、共編、The Royal Inscriptions of Tiglath-pileser III (744-727 BC) and Shalmaneser V (726-722 BC), King of Assyria, The Royal Inscriptions of the Neo-Assyrian Period、Eisenbrauns (Winona Lake, Indiana)、2011、261

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

守屋 彰夫 (MORIYA AKIO)  
東京女子大学・現代教養学部・教授  
研究者番号：70239698

### (2) 研究分担者

佐藤 研 (SATOU MIGAKU)  
立教大学・文学部・教授  
研究者番号：00187238

### (3) 連携研究者

月本 昭男 (TSUKIMOTO AKIO)  
立教大学・文学部・教授  
研究者番号：10147928

山我 哲雄 (YAMAGO TETSUO)  
北星学園大学・文学研究科・教授  
研究者番号：80230332

山田 重郎 (YAMADA SHIGEO)  
筑波大学・人文社会科学部・教授  
研究者番号：30323223

勝村 弘也 (KATSUMURA HIROYA)  
神戸松蔭女子学院大学・文学部・教授  
研究者番号：80148618

### (4) 研究協力者

秦 剛平 (HATA GOHEI)  
多摩美術大学・名誉教授  
研究者番号：20103715  
(H22 23：研究分担者)